

第10次北海道家畜改良増殖計画のポイント

乳用牛

～経営体質の強化に向けた生涯生産性の向上を目指す牛づくり～

1 能力に関する改良目標

- 1頭当たり乳量の向上
- 生涯生産乳量の向上

・8,568 kg/年 → 9,000 kg/年 ・除籍産次の延長 3.3産 → 3.5産

○ 長命連産性の向上

- 繁殖性の向上
・初産月齢の早期化 25 か月齢 → 24 か月齢
- 泌乳持続性の向上
・泌乳期間中の乳量の増減変化が小さい牛づくりを通じ、牛の負担を軽減

2 体型に関する改良目標

- 耐久性の向上とともに、飼養管理のしやすい牛づくり



3 能力向上に資する取組

- 牛群検定・後代検定の安定的な実施体制の確保
- ゲノミック評価を用いた改良の加速化と多様な経営形態に対応した情報提供の検討

4 増殖目標

- ニーズに応じた牛乳乳製品の安定的な供給を確保できる頭数



肉用牛

～全国和牛能力共進会を見据えた和牛生産の基盤強化と生産性の向上を目指す牛づくり～

1 能力に関する改良目標

○ 産肉能力の向上

- ・増体能力及び枝肉重量の向上
- ・肥育期間の短縮 (H30年度 → R12年度)
出荷月齢 黒毛和種 28.1 か月齢 → 26.0 か月齢
乳用種 18.6 か月齢 → 18.5 か月齢
交雑種 24.1 か月齢 → 24.0 か月齢

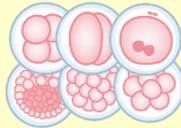
○ 繁殖性の向上(黒毛和種)

- ・初産月齢の早期化
26.7 か月齢 → 24.0 か月齢
- ・分娩間隔の短縮
13.6 か月 → 12.5 か月



○ 飼料利用性の向上

- ・コスト低減に向けた飼料利用性の向上



2 体型に関する改良目標

- 繁殖雌牛における品種や系統の特性に応じた体型づくり

3 能力向上に資する取組

- 新技術を駆使した効率的な受精卵の作出
- ETによる基幹種雄牛の作出
- 選抜種雄牛による計画交配
- ゲノミック評価を用いた繁殖雌牛側からの改良の加速化

4 増殖目標

- 肥育牛の増頭へ力点を置きつつ、牛肉の需要動向に即した生産を行うことができる頭数

豚

～収益性の高い豚づくり～

- 産肉能力や肉質等収益性を追求した種豚の造成
- 防疫等衛生管理の徹底による改良の推進



馬

～多様なニーズに応える馬づくり～

- 重種馬、軽種馬、乗用馬等の用途に応じた能力向上
- 重種馬、軽種馬、乗用馬等の需要動向に応じた頭数の確保



めん羊

～安全・安心な道産羊肉需要に応えるめん羊づくり～

- NZの優良種畜を活用した繁殖能力、産肉能力の向上
- スクレイビー抵抗性遺伝子保有率の向上



鶏

～消費・流通ニーズに応える鶏づくり～

- 特色ある地鶏肉等の安定生産と品質の維持
- 北海地鶏Ⅲの生産性の向上と特徴を活かした普及の推進

